

平成16年2月16日

各関係機関長 様

高知県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予察特殊報第6号を送付します。

平成15年度病虫害発生予察特殊報第6号

平成16年2月16日
高知県病虫害防除所

1. 病名 モトジロアザミウマ(仮称)

学名: *Echinothrips americanus* MORGAN

2. 発生作物 ミヨウガ

3. 発生確認の経過

(1)平成15年4月、須崎市の施設ミヨウガにおいて、葉がかすり状になる症状が見られ、葉に暗褐色のアザミウマが確認された。

(2)農林水産省神戸植物防疫所に同定を依頼したところ、これまで本県では発生の見られなかったモトジロアザミウマ(仮称)であることが確認された。

(3)その後、県下のミヨウガ栽培地帯を中心に調査を行ったが、現在、発生が確認されているのは須崎市の施設栽培のミヨウガ(60ha)のうち約10haである。

(4)本種は平成11年に東京都小笠原村父島のインゲン、平成14年に愛知県豊橋市のオオバで発生確認がされているが、ミヨウガでの発生は初めてである。

4. 形態

成虫は体色が暗褐色で、頭部と胸部の節間が赤みを帯び、前翅の基部及び中央が灰白色である。体長は雌が約1.6mmで雄は1.3mmである。幼虫は黄白色でやや細長く、複眼が赤い。また、体全体が刺毛に覆われている。蛹は胸部から腹部にかけてやや膨らんでおり、体全体に刺毛がある。

特に、成虫の前翅基部は白いラインが入ったように見え、形態的な特徴となっている。



モトジロアザミウマ成虫 ミヨウガでの低密度時の症状
写真をクリックすると拡大写真が見られます。

5. 被害状況

(1)食害を受けた葉は葉縁部からかすり状となり、ハダニによる食害に似る。密度が上昇すると葉全体がかすり状となり、艶がなくなり、場合によっては葉先等が褐変する。

(2)寄生は生長点付近に多く、新たな葉の展開と共に上位葉に広がって行く。

6. 防除対策

(1)本種に対する農薬登録はないが、ミヨウガのハダニ類に登録のあるコテツフロアブル、また、本県のミヨウガでの経過措置承認農薬であるスピノエース顆粒水和剤、アフーム乳剤などで同時防除が可能である。

(2)ハウス周辺の雑草防除やハウスサイドへの寒冷紗被覆など耕種的防除もあわせて行う。

7. その他

本種はポインセチア、インパチェンスなどが代表的な寄主植物として知られているが、寄主範囲は広く、愛知県における放飼試験ではオオバ以外にキュウリ、メロン、ナス、ピーマン、トマトなどに寄生と加害が認められており、本県でも今後注意が必要である。

以上